

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立相知中学校	
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○学力の向上 ○生徒指導・教育相談の充実 ○人権・同和教育の充実 ○健康な体と体力の育成 ○業務改善・教職員の働き方改革の推進 ○危機管理 	<p>12月の佐賀県学習状況調査の結果から、基礎的・基本的知識及び技能については着実な成果がみられたが、依然として思考力や表現力に課題がある。</p> <p>教師が特別支援教育の視点をもって指導にあたることで個に応じた指導ができ、生徒は落ち着いた生活態度であった。今後は生徒の主体的活動をさらに充実し、挨拶・言葉づかい等について高めていく。不登校については、学校生活に起因しない場合も多く、大きな課題である。</p> <p>生徒の自尊感情を高め、お互いに尊重しあえる仲間づくりを行ってきた。'Q-Uの活用'、'人権・同和教育を生かした差別を許さない集団づくり'、'生徒会活動の活性化'等に取り組んだ成果が表れてきており、今後も取組を進めていきたい。</p> <p>体力テスト等の結果は、県平均と同等であり、食育推進優良校に認定されるなど、目標は概ね達成できている。望ましい生活習慣である「早寝・早起き」については、SNSの利用時間が増加傾向にあり、課題がみられた。</p> <p>業務効率化により、業務改善は若干進んだが、全職員が時間外労働時間4.5時間以内とするには、職員自身の時間管理も含めた全校をあげた取組が必要である。</p>
2 学校教育目標	恕・克己・感謝の心をもち、生き抜く力を身に付けた生徒の育成	
3 本年度の重点目標	① いじめや差別を見抜き許さない人権・同和教育の推進（すべての教育活動の根幹への位置づけ） ② 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、深い学びの研究推進	

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価	主な担当者
---------------	--------	-------

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○全職員参加の研究授業を行う。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、学力向上推進教員の指導を受けながら校内研修等により取組の促進を図る。	B	・学力向上推進教員による校内研修を2回実施した。また、生徒向けの講話を1回実施した。 ・マイプランの成果指標を達成した教師は94%であった。 ・全職員参加の研究授業は実施できなかった。	B	・全職員参加の研究授業が実施できなかったことは仕方ないです。 ・特に3年生の取組はよかったのではないかと。ほとんどの子が志望校に合格したことは先生の適切な指導があったのだと思います。	学力向上担当 指導法改善担当 校内研究担当
	○自他を大切に作る仲間づくり	○2回目の「Q-U」で学校生活への満足度が向上する。 ○自分や仲間の良さに気づく生徒が85%以上	・「Q-U」を活用して人間関係作りに役立つ学習の場を設定し、よりよい集団の成長を促す。	B	・自分や仲間の良さに気づいた生徒が99%だった。 ・「Q-U」テストは、第1回(5月実施)は良好な結果だったが、第2回(11月実施)では満足度の生徒が減少したクラスも見られた。	B	・なし	人権・同和教育担当 Q-U担当
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○特別の教科道徳や人権・同和教育に関する授業が自分を高めていると感じている生徒が80%以上	・特別の教科道徳の授業づくりに関する校内研修等の実施 ・人権学習や部落問題学習の授業を家庭・地域や他校に公開する。	A	・特別の教科道徳や人権・同和教育に関する授業が自分を高めていると感じている生徒は96%で昨年比3ポイントアップ。 ・人権学習や部落問題学習の授業を着実に実施し、可能な範囲で公開した。	A	・なし	道徳教育担当 人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。	A	・担任と各学年スタッフを中心に、丁寧に情報を整理し、指導を行うことができた。また、指導後の該当生徒たちの方も注意して対応できている。 ・管理職、生徒指導主事とも密に情報共有し、組織的に対応できた。また、指導後の該当生徒たちの方も注意して観察している。	A	・なし	生徒指導担当
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○自分の時間の使い方を改善できた生徒70%以上	○タイムマネジメント教育プログラムを導入する。	A	・各学年家庭での時間の使い方について指導した。ゲームやSNSの時間が長い生徒には個別に指導し、時間を管理するよう促した。	A	・ここが一番の心配 ・家庭での管理が難しい。保護者のかかわり方がどのようなのかも調べてほしい。 ・SNSの使い方の指導もしてもらいたい。	特別活動担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間等の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定	B	・時間外勤務等時間の上限(4.5時間)を遵守するべく、できることから取り組んだ。達成できた職員の割合は80%であった。教育活動の充実を図る中で100%に近づけていく。	B	・部活動は特に大変だと思います。保護者の方にもよく理解してほしいものですね。 ・部活動の時間が減ることで、顧問と保護者とのかかわりかたが難しくなるのではないかと。	教頭、教務主任

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	

◎志を高める教育	○SDGs～持続可能な開発目標～を意識した教育活動の展開	○「持続可能な社会を創る担い手となる」ことに肯定的な生徒80%以上	・「SDGs スタートブック」を活用した実践を行う。	A	・ほとんどの生徒が「環境を守り、持続可能な社会を創るための取組は大切」という意識を持っている。各学年とも、その意識を行動につなげる教育活動を、総合的な学習の時間の取組を中心に充実させることができた。	A	・ガチガチの指導よりも、生徒が取組を計画できる教育を。	学年主任
○防災教育	○自他の安全を守る意識の涵養	○「危険を避ける力や、危険が生じたときに対応する力」はついてきた」と思う生徒90%以上	・生徒の危機意識の向上を高めるための防災訓練、交通安全訓練等や教育講演会を年3回以上実施する。 ・「青少年赤十字防災教育プログラム」を活用した実践を行う。	A	・新型コロナウイルス感染症の影響で、制限がある中での実施だったが、防災訓練、交通安全訓練などの外部講師を招聘しての講話を含んだ訓練を年3回以上実施することができた。 ・「青少年赤十字防災教育プログラム」を活用した防災教室を実施し、自他の安全を守る意識について考え、その大切さを感じる事が出来た。	A	・常に訓練を実施することは大事だと思う。 ・もし事が起きたら、自分は何をするかを前提に教育を。	安全教育担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・多くの教師が、生徒の成長を、子どもたち自身と共に実感できた1年間であった。卒業式において、保護者代表の方から「コロナ禍において、多くの制限がかかるなか、どうやって前に進むのか、先生方が背中子どもたちに示していた。」というお言葉もいただくことができた。この言葉に込められた期待を糧として、以下のような取組を着実に実施していく。</p> <p>・「学力の向上」…県学習状況調査において課題が見られ、その解決にむけた取組について検討した。決定した取組を着実に実施していく。</p> <p>・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」…持続可能な社会を創る生徒の育成を図るために、持続可能な学校を創るための取組であるという意識を全職員で共有し、一層の業務改善を推進していく。</p> <p>・「望ましい生活習慣の形成」…幼保小中の連携した取組を実施し、SNSなどのネット関連の弊害について、保護者への啓発活動を継続していくことで、子どもたちのネット依存的な状況を改善していく。</p>
----------------	--